

フローズンラブ

雨和七瀬

桜は散り際が美しいというならば
どんな宝石よりもより君の方が美しいはずだから
僕は君を手を取った
痛々しいほどの美しさを零しながら
君はどんどんと小さくなってゆく
両手いっぱい君は僕の手をすり抜け
赤い痛さを残していった

新たな君を探す
もう失うことの無い君を